

## 54. 20201005 草花の生育のタイプと特徴について

### 1. 育ち方の特徴

#### (1)一年草

種を蒔いたその年のうちに発芽し、花が咲き、種を付け、枯れる植物で、1シーズン花を咲かせ、種を付けて枯れた後はもう花を咲かせることはない。次の年は残された種から新しい株が育つ。本来は原産地では多年草であるが、日本の環境では冬越しができないなどの理由で、一年草扱いになるといった多年草植物も多い。一年草でもこぼれ種で翌年咲くものも結構ある。宿根草に比べると、花付きがよく、生育スピードが速い傾向があるので、日本のガーデニングには向いているといえる。

#### (2)二年草

種を蒔いた最初の一年は根を広げたり、茎や葉を伸ばすところまでで静かに過ごし、次の年の春や夏に花を咲かせる植物をいう。越年草とも呼ばれ、秋に種を蒔いて、次の年の春や夏に花を咲かせる植物も二年草と呼ばれるときがある。

#### (3)多年草

多年草は、同じ株から何年も枯れずに続けて花を咲かせる植物のこと。多年草は冬でも基本的には葉が枯れずに残っている。原産地では多年草であるが、日本の気候では冬に枯れてしまう植物は、一般的に一年草とされる。

#### (4)宿根草

多年草とは違い、冬になったら地上部(葉や茎)を枯らす。冬にはじっと土の中で耐え、また暖かくなり出したら大きく育ちはじめ、花を咲かせ、また季節が終わると土の中でじっと過ごすという植物をいう。冬になると一見何もなくなくなったかのようにも見えるが、実は生きているという植物である。

### 2. 咲き方の特徴

#### (1)一年草・二年草

一年草や二年草は、その年のうちに発芽から枯れるところまで行くので、花期が短いものが多い。しかし、その一度のために持っているエネルギーのすべてを使うことができるので、多年草や宿根草と比べると、花は大ぶりで鮮やかだったり、花付きも良かったりする。

「もともとは多年草だけれど、日本では一年草」の植物は、多年草の性質を持っているので、パンジーやビオラなどのようにとても花期の長い植物もある。

【一年草の例示】キンギョソウ、デイジー、パンジー・ビオラ、ニゲラ、ペチュニア

【二年草の例示】ジキタリス、カンパニュラ

#### (2)宿根草・多年草

宿根草や多年草は毎年花を咲かせてくれる植物で、育てているうちに年々株が大きくなっていく。

宿根草は根が残り、地上部が枯れても春になったら芽を出したり、年中枯れることがない。宿根草は多年草の分類の一つである。また球根も宿根草に入るので、非常に多くの植物がこの範疇に入る。

種類にもよるが、植えてから数年は株自体が小さく、花も小さくて花付きがよくないことが多い。その代り、数年経って株が大きくなってくると、びっくりするほど豪華な花をつけるようになるものもある。地植えにしていれば世話もほとんどかからない植物であるが、多年草ばかりの花壇だといつもの代わり映えがしない、少し華やかさに欠ける花壇になってしまうことになる。

【宿根草の例示】シクラメン、カンナ、クラマチス

【多年草の例示】ギボウシ、ガーベラ、キキョウ